

専大スポーツ

No. 412

大会結果、予定は体育会ホームページ(専大ホームページ「スポーツ」からアクセス)でご確認ください
専大スポーツ編集部 web (http://sensupo.web.fc2.com/) でも大会結果を配信しています

全員でつかんだ箱根の切符

7人が自己ベスト更新

7人が自己ベストを更新し、ハーフマラソン初挑戦の4人も好タイムを記録した。全員が力を出し切り、箱根駅伝本選の切符をつかみ取った。

満点のレース

長谷川淳監督

練習が自信に

茅野雅博主将

落ち着いた走り期待に応えた木村、チームをけん引した茅野主将、森島をはじめ、選手が持てる力を十分に発揮した100点満点のレースだった。コロナ禍で練習や合宿といった全ての活動を変えざるを得なかったが、一人一人と向き合うことで良い練習ができ、自信を持って臨むことができた。多くの方に予選突破を喜んでいただき、改めて伝統と歴史を感じている。今後も一歩ずつ、着実にステップアップしていく。



1年次・木村 チームトップの快走

1年次生ながらチームトップの快走を見せた木村曉仁(経営1・佐久長聖高)。1キロ3分のペースをキープするというプラン通りの走りで、長谷川終さん(令2商)のハーフマラソン専大記録を2秒更新した。木村は「予選会は先輩たちがこれまで積み上げてきたことが表れた結果。これからが勝負。チームの柱となるように取り組んでいきたい」と話した。



Return to HAKONE

順位	記録	氏名	所属
44	1:02:44(初)	木村 曉仁	経営1・佐久長聖高
56	1:02:54 ★	茅野 雅博	商4・鶴翔高
61	1:03:00(初)	高瀬 桂	経営2・鳥栖工高
86	1:03:12 ★	森島 嘉大	文4・美濃加茂高
91	1:03:16 ★	南 美空翔	文3・樟南高
99	1:03:22 ★	金久保 遥	経営3・佐野日大高
105	1:03:25 ★	国増 治貴	経営2・豊浦高
130	1:03:38(初)	成島 航己	経営2・専大松戸高
173	1:03:58 ★	佐々木 詩音	経営3・専大北上高
217	1:04:30(初)	水谷 勇登	経営1・敦賀気比高
259	1:05:11 ★	吉岡 拓哉	経営2・我孫子高
387	1:08:23	横山 佑羽	文3・三浦学苑高

予選会出場選手

★は自己ベスト。初回はハーフマラソン初出場

思い込めた千羽鶴文字「繫」

無観客で行われた今回の予選会。現地で応援できない中、目に見える形で選手を激励しようと「繫」の千羽鶴文字が陸上競技部に贈られた。体育会本部(黒柳陽汰委員長=文4・豊川高)を中心に各部の学生、職員らが「絆を繫ぐ」「心を繫ぐ」の二つの意味を込めながら1羽ずつ鶴を折った。育友会作成ののぼり旗とともに生田キャンパスに展示され、選手たちを後押しした。



男子1万以内 期待のルーキー・蟻戸

シーズン初戦を制す

全日本スピードスケート距離別選手権10月23〜25日、長野市・エムウエーブ

男子1万以内に出場した蟻戸一永(経営1・白樺学園高)が13分28秒94で優勝し、「ワールドカップ派遣選手団」に選考された。5000以内は6分27秒13で3位だった。



金メダル掲げる蟻戸

「前日は緊張して寝つかなかった」と話す、本番は集中して実力を発揮した。「フィジカル面」に選考された。5000以内は6分27秒13で3位だった。

落合が8位

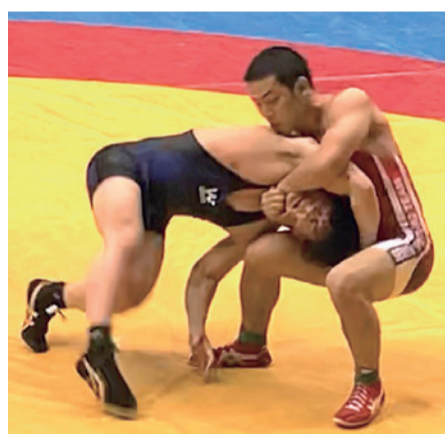
日本学生選手権水泳競技大会10月1〜4日、江東区・東京辰巳国際水泳場

長水路(50メートル)で行われた大会。女子200メートルバタフライに落合すみれ(経営3・日女体大附二階堂高)が出場した。予選で8月の試合から2秒以上タイムを縮める2分12秒76を記録。決勝はタイムを落とさず、8位に入賞した。

67kg級 吉永 初の学生タイトル

全日本大学グレコローマン選手権10月15〜16日、世田谷区・駒沢体育館

67kg級で吉永信太郎(経営3・玉名工高)が優勝し、初の学生タイトルを獲得した。



相手の動きを制し、優位に試合を進める吉永(右)＝準決勝

合展開で、準決勝を10-0、決勝を4-0と完勝したが、「今回のようなコンディションでは、12月の全日本選手権で優勝できない。モチベーションコントロールに改善の必要性を感じた」と振り返った。



リアルモード号の鞍上で入賞を喜ぶ丹治。右は近藤主将

総合馬術団体 3位入賞

全日本学生馬術大会11月1〜3日、山梨県馬術競技場

総合馬術競技で丹治翔(経営3・福島東稜高)・リアルモード号組が個人4位となるなど各選手が活躍した。

佐藤奨真投手が 千葉ロッテ育成4位

ドラフト会議

10月26日のプロ野球ドラフト会議で、野球部の佐藤奨真投手(経営4・関東第一高)が千



葉ロッテマリーンズから育成4位で指名された。

左投げの佐藤は、伸びのあるストレートを武器に、3年次の春季リーグ(2部)では最高殊勲選手、最優秀投手を受賞。今秋も先発の柱として力投し、防御率1.77と安定した投球を見せた。ドラフト後の会見で、「指名されてとてもうれしい。ここからは上がる気持ちでしっかりと頑張りたい。応援よろしくお願います」と力強く語った。

この優勝できるような、気を抜かず練習に励んでいく」と語った。同じ競技に出場した松岡翼(文2・東京都立農芸高)、山下翔(文2・京都府立洛水高)も悔しさをにじませ、来年の飛躍を誓う。大学生として最後の試合を終えた近藤舞玉主将(経営4・学芸大学)は、「入賞は、練習の成果を十分に発揮した結果を自分につなげ、優勝目指して練習を積み重ねていく」と意気込みを語った。